

通信

喜多浩一

き た こう いち

Vol.28 発行・喜多浩一

金沢市議会議員10年目 初心忘れず



平成23年4月の金沢市議会議員選挙において、皆さまの大きなご支援を頂き初当選させていただいて以来、今年は節目となる10年目を迎えるとしています。その間、3度の選挙も経験させていただきました。改めて感謝申し上げます。

証券会社の営業という数字が全ての「経済、の世界にどっぷり浸かっていた自分にとっては、その全く真反対の人間臭くて泥臭い「政治、の世界は、本当に驚きと戸惑いの連続でした。親兄弟や親戚にも政治家は

皆無であり、私自身も国会議員秘書などの政治経験が全くない中でのあの船出の頃を思い返すと、この10年の感慨はひとしおです。改めて、あの頃の初心を忘れず、市民の皆さまに尽くす政治家であり続けることをここに誓わせていただきます。

昨年からは令和という新しい時代を迎えました。日本国内は少子高齢化による人口減少社会に本格的に突入し、このままのスピードで行けば、約100年後には現在の人口の半分以下になるとの統計が出ています。金沢市においては、そのスピードは他都市に比べ緩やかとはいえ、街中を中心とした急速な高齢化や空き家の増加などは身近な問題として、市民の皆さまにも影響が出ています。また、今年で北陸新幹線開業から6年目を迎えますが、あまりにも増えすぎた観光客の増加は、その経済効果以上に大きな問題を引き起こしています。令和の時代も平成の時代同様、厳しい社会環境が予想されますが、我々の子どもや孫などの次世代のためにも、この日本を、この金沢を発展させていく責務が我々にはあります。これからも、是非とも大きなご指導・ご支援を頂くことをお願い申し上げます。

この「喜多浩一通信」も28回目の発行となりました。バックナンバーについては下記アドレスにてご覧になれますので、アクセスしていただければ幸いです。（喜多浩一）

<http://www.kita-koichi.com/archive2/>



①谷口吉郎・吉生記念金沢建築館の開館
寺町に金沢の建築文化の発信拠点が誕生しました。



②街頭演説
市民の皆さまに対する報告の場として、頻りに街頭に立たせていただいています。

議会活動 PHOTO



④金沢工芸の発信
世界に向けて、金沢の工芸を発信していきます。



③精神障害者スポーツの会
身体障害者スポーツだけでなく精神障害者スポーツの会にも出席、ご挨拶させていただきました。

喜多浩一 プロフィール

昭和 45年 5月 野町に生まれる
52年 3月 藤蔭幼稚園卒
58年 3月 森山町小学校卒
(金沢東警察署で少年剣道)
61年 3月 星稜中学校卒
(剣道部主将)
平成 元年 3月 金沢泉丘高校卒
(剣道部主将)
9年 3月 早稲田大学卒

平成 9年 4月 今村証券株式会社入社
23年 1月 // 退社
23年 4月 金沢市議会議員選挙に初当選
27年 4月 金沢市議選挙で2期目の当選
31年 4月 金沢市議選挙で3期目の当選
金沢市泉本町に在住
資格 証券アナリスト・ファイナンシャルプランナー
国家試験合格 行政書士・宅地建物取引士
家族 妻、長男(米泉ドジャース→石川中央ボーイズ→
金沢泉丘高校野球部)、次男

ご意見などございましたら お気軽に・・・

〒920-8577 金沢市広坂1-1-1
金沢市役所 6F
会派控室
まで



ツイッター・フェイスブック
で情報を発信しています。
ぜひアクセスをお願いします！

AIで事務効率化図れ

喜多浩一氏(自民) 総合学習に関し、校外学習の導入と受け入れ先について考えを問う。

野口教育長 学校の裁量で長期休業日や土曜を授業日に設定し、校外学習にも活用できると定めている。学校現場からも要望があり、夏季休業日の利用についてさらに拡充する。今後、プログラミング教育の実施に合わせ、IT関連企業など受け入れ先の拡大へ努力したい。

喜多氏 AIやRPA(ロボットによる業務自動化)など先端技術を活用し、市役所の事務効率化を図ることが可能か。

山野市長 福祉局や保健局など、特定の時期に大量の入力業務が発生する事務から優先的に導入したい。今後、時間外勤務の入力などでも活用したい。

北國新聞 2019年3月13日付 朝刊

最先端技術積極的に導入

喜多浩一氏(自民) まちづくりの最先端技術を継り交せることは金沢のブランド価値を高めることになる。

山野市長 利便性向上にもつながら、最先端技術を活用した国のモデル都市「スマートシティ構想」を注視したい。

喜多氏 (行政や企業、市民団体が連携して)地域での商品普及に取り組み)フェアトレードタウンは金沢版SDGs。(持続可能な開発目標の)目玉にならないか。

山野市長 市内の企業や市民団体の活動を調査し、年度内に定める行動計画に盛り込む方向で検討する。

北國新聞 2019年6月27日付 朝刊

人口減対策検討会作れ

喜多浩一氏(自民) 人口減少対策について、来年度以降、新たな専門部署、検討会などを作るべきだと考える。

山野市長 市民や産業界など各分野の代表で構成する金沢版総合戦略推進委員会において、将来直面する課題を整理し、議論を行う。

喜多氏 来年の東京五輪・パラリンピックに向け、機運醸成の取り組みを聞く。

山野市長 地方初開催となる来年のスポーツ文化ツーリズムシンポジウムなどを通じ、幅広い分野において機運が高まるよう取り組んでいく。

北國新聞 2019年9月13日付 朝刊

南町の観光案内所14言語で電話対応

山野市長は、県と市が南町で来春に開設する観光案内所「県金沢中央観光情報センター(仮称)」について、「電話通訳サービスは中国、イタリア、フランスなど14言語への対応を予定している」と述べた。

窓口には英語を話せるスタッフの配置を考えているとしたほか、「地域通訳案内士や小学校の英語インストラクター経験者の採用も検討したい」と語った。施設の運用費に関しては県の折半が基本になるとの認識を示した。喜多氏の質問に答えた。

旧野町小の価値創造拠点 愛称を全国公募

最先端技術を応用して新産業を創出する「価値創造拠点」を旧野町小に整備することに關連し、山野市長が質問した。

名称は有識者による選定委員会で決定する。本会議終了後、山野市長は愛称について「新しさを、未来を感じてほしいものが望ましい」と述べた。

価値創造拠点はカフェやプログラミング創作ルーム、オフィスなどを備え、新年度に基本設計に着手し、2021年春の供用開始を目指す。愛称は20年度をめどに公募するという。



「越境」工芸意欲光る

2019ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭(同実行委員会、石川県、一般財団法人県芸術文化協会主催)は10日、金沢・世界工芸トリエンナーレが開幕したほか、小唄や民謡の発表会、着物の教室が開かれ、幅広い世代が石川に息づく文化に触れた。

金沢21美

「越境する工芸」をテーマに金沢21世紀美術館が開幕した第4回金沢・世界工芸トリエンナーレ(北國新聞社特別協力)では、来場者が工芸都市・金沢に集結した秀作群から工芸の豊かな可能性を感じ取った。

国際公募展「2019金沢・世界工芸コンペティション」は入賞、入選作74点が展示された。大賞を受けた菅野有紀子さん(金沢)の「deep river」は細長いガラスを無数に配し、少女の心情を表した世界観が目を引いた。漆の光沢に人間の複雑な感情を込めた人体像のほか、陶磁や金属の意欲作も並んだ。40の国と地域から525点の応募があり、開催委員長の大樋陶治さん(陶芸家、文化勲章受章者)らが審査した。

企画展には国内外で活躍するアーティスト15人が参加し、工芸の枠にとらわれない鋭い感性が光った。

10日は開場式と金沢・世界工芸フォーラムも開かれ、公募展の審査も担当した米メトロポリタン美術館アジア美術部日本工芸アシスタント・キュレーターの高木・ピンチクさんらが世界の工芸の動向などを紹介した。展示は21日までで入場無料。

2019 ビエンナーレいしかわ 秋の芸術祭

北國新聞 2019年11月12日付 朝刊

ロボットによる業務自動化 名簿作成で先行導入

山野市長は庁内でのRPA(ロボットによる業務自動化)の導入に関し、避難行動要支援者の名簿作成業務で先行して利用を始める」と説明した。市民から寄せられた情報のシステム入力自動化する計画で、現在運用に向けた準備作業を進めている。

山野市長は名簿作成のほかに、「申請の業務が多い保健局と福祉局で優先的に導入したい」と述べ、効果を検証した上で他の部局への拡大を目指すとした。

AI(人工知能)の活用については、7月に議事録作成システムで運用を開始したとし、「10月には行政情報に関する自動案内システムの試行を予定している」と述べた。業務の効率化に関して喜多氏が尋ねた。

